

第13回

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

堀河天皇に親しく仕えていた讃岐典侍藤原長子は、天皇の崩御ののち自宅で喪に服していた。そこに来信がある。

なお、関係する天皇家の系譜は次の通り。また、この日記では、執筆の時点より以前に崩御した天皇も院と呼称している。

後冷泉天皇

後三条天皇―白河天皇―堀河天皇―鳥羽天皇

かくいふほどに、十月になりぬ。^A「弁の三位殿より御文」といへば、取り入れて見れば、「年ごろ、宮仕へせざ^B

せたまふ御心のありがたきなど、よく聞きおかせたまひたりしかばにや、^C院よりこそ、^Dこの内にさやうなる人

の*たいせちなり、*登時参るべしと、おほせごとあれば、^Eさる心地せさせたまへ」とある、見るにぞ、あさまし

く、ひがめかと思ふまであきられける。^F亡クナツタ堀河天皇ガ^Gおはしまししをりより、^Hかくは*聞こえしかど、

いかにも御いらへのなかりしには、^Iさらでもとおぼしめすにや、^Jそれを、いつしかといひ顔に参らんこと、あさ

ましき。

*周防の内侍、後冷泉院におくられますて、^K後三条院より、七月七日参るべきよし、おほせられたりけるに、

天の川おなじ流れと聞きながらわたらん^Lことはなほぞかなしき

とよみけんこそ、げにと^M

五語句

○ひがー「僻」接頭…(名詞に付いて)道理に合わない、
まちがっている。また、ひねくねしているの意。

↓。ひがめ「僻目」(名) ①よそ見、わき目。
②見誤り。見まちがい。

○さらでも「然らでも」連語…そうでもなくとも。
いつしか「何時しか」副…①いつのまにか。早くも。

②(下に刃く)願望の表現を伴って早く。

○おくる「後る・遅る」動…①おくれる。あとに残る。

②死におくれる ③劣る。

○げに「実に」副…①現実に。まことに。実際に。

②(感心・動・賛成の意を表して)ほんとうに。いかにも。